

セイスポ

星槎スポーツ新聞

第19号 ★ 2018年2月15日(木)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2



宮澤ひなた なでしこジャパン 候補に!



宮澤ひなた

星槎国際湘南女子サッカー専攻の宮澤ひなたが、日本女子サッカー代表のなでしこジャパンの候補に選出された。宮澤は2015年にU-16日本女子サッカー代表として初選出されると、アジア選手権の準優勝に貢献しU-17女子W杯ヨルダン2016大会進出の立役者となった。

そのまま、U-17日本女子サッカー代表に選出され、U-17女子W杯ヨルダン2016では準優勝に貢献した。2017年にはU-19日本女子サッカー代表に選出され、アジア選手権優勝に導く活躍をした。各世代でアジア選手権やW杯に出場し、世界と互角に戦ってきた成果が認められた形となった。



VOICE
宮澤ひなた
いつも応援ありがとうございます。今回このように選ばれるのも多くの方の応援、サポートがあったからこそ経験できていたのだと思います。始めは緊張していましたが、先輩方のおかげで少しずつチームにも馴染めています。なでしこジャパンは小さい頃から目標として毎日練習してきていたので今回の合宿を通して少しのチャンスでもしっかり掴み取りたいと思います。また、この先もなでしこジャパンのメンバーに入れるように残り少ない日数を大切に、もっと自分をアピールしてメンバーに食い込んでいきたいと思っています。そして多くの方に感謝するので共に、たくさんの人を笑顔にできるように選手になれるようにもっと努力して行きたいと思えます。これからも応援よろしくお願ひします。

トがあったからこそ経験できていたのだと思います。始めは緊張していましたが、先輩方のおかげで少しずつチームにも馴染めています。また、この先もなでしこジャパンのメンバーに入れるように残り少ない日数を大切に、もっと自分をアピールしてメンバーに食い込んでいきたいと思っています。そして多くの方に感謝するので共に、たくさんの人を笑顔にできるように選手になれるようにもっと努力して行きたいと思えます。これからも応援よろしくお願ひします。

全国私学高等学校 男女バレーボール選手権大会 神奈川予選会連覇



連覇に喜ぶ

全国私学高等学校男女バレーボール選手権大会神奈川予選会が12月17日、23日に行われた。昨年の全国私学高等学校男女バレーボール選手権大会神奈川予選会では初優勝という結果を残すことができた。今年も昨年に引き続き優勝することを目標に練習を重ねてきた。3年生が11月の春高予選で引退し、新チームがスタートしてから約2か月が経った。他校のチームは夏から新チームとして練習をしているので完成しているチームがほとんどだ。少ない練習期間の中で、チームがまとまるためにひとり一人が自分の役割をしっかり理解し行動することを心がけた。ベンチメンバーは市倉みなみ、小島梨奈、宮田

香澄、天野愛美、田中彩夏、山田麗奈、大澤萌々、馬場晴海、小野彩花、西川舞子、玉城優羽、福本汐理、関優里、富樫あかねの14名。マネージャーとしてベンチに東尾愛梨が入る。スターティングメンバーは、レフト市倉、宮田、センター田中、山田、ライト天野、セッター小島、リベロ玉城だ。

大会1日目、第1試合目は慶應義塾湘南藤沢高等部に25-12、25-4で勝利。第2試合目は湘南学院高等学校に25-4、25-14で勝利した。スタートから自分たちのサーブで相手を崩し点数を離すことができ、中盤までは良い流れで試合を運ぶことができた。15点以降は控えメンバーが途中交代でピンチサーブとしてコートに立ち活躍し、さ

らに良い雰囲気を作ることができ、ストレートで勝利した。2日目決勝トーナメント、第1試合目は横浜創英高等学校に25-12、25-13で勝利。サーブカットが少し崩れてしまい、コンビを展開することができず失点をする場面があったが、後半、キャプテン市倉を中心にしっかり声を出し雰囲気を作ることができた。準決勝の相手、三浦学苑高等学校に25-23、25-20で勝利した。春高予選でも戦っているチームだったので、試合前は少し緊張感があった。1セット目スタートに星槎のサーブが走り、点数を離すことができたが、直ぐに相手も立て直し中盤までシーソーゲームを展開。18点以降に2年生の市倉、宮田の気迫のあるプレー

VOICE
キャプテン
市倉みなみ(2年)
昨年は全国私学高等学校男女バレーボール選手権大会神奈川予選会で初優勝することができました。そのため2連覇を果たすことを目標として今大会を迎えました。2日目の三浦学苑との試合では危ない場面がありましたが、すぐにリズムを取り戻し勝つことができました。決勝では自分たちの持ち味のコンビバレーで勝利し、2連覇という目標を達成することができました。本戦でも昨年の結果よりも良い結果を目指して頑張ります。

小島梨奈(2年)
3試合とも自分たちの流れが一気に星槎に変わった。2年生のプレーを見て、1年生の田中、山田、天野も必死にプレーした。2セット目、気を緩めずスタートから自分たちの流れにするために、ポイントを取ったらコートにガッツポーズしながら走り回り、気持ちで負けないうち最後の1点を取るまで全員で戦い勝つことができた。

決勝は東海大学付属模高等学校を相手に25-15、25-15で勝利した。相手の早い攻撃をセンターの田中、山田がブロックで連続得点をとり、リベロ玉城のレシーブで星槎のリズムを掴み最後まで攻めきることができた。チーム全員で戦うことができたから2年連続優勝することができたと思っ。本戦までに個人のレベルをあげ全国で通用するチームになる。

宮田香澄(2年)
サーブで攻めることができ、より多くのチャンスをもたらすことができました。ですが、無駄なミスが多く自分たちの課題を見つけたことができた試合でもありました。2連覇することができたのは嬉しいですが、もっともっと上を目指して課題克服していきたいです。



円陣を組んで

平成29年度 星槎オリンピック

第16回 伝統競技部門 第12回 料理部門

平成30年1月12日(金) @星槎中学高等学校

2018年がスタートし最初の星槎オリンピックが今年も星槎中学高等学校を会場に、第16回伝統競技部門と第12回料理部門が同時に開催され、寒さの中800人を超える星槎の仲間が集まった。伝統競技部門では、百人一首での散らし取りによる個人戦、坊主めくりによる団体戦を、料理部門では広島名産のマルあか馬鈴薯(ジャガイモ)を使ったコロッケと自由料理の調理をし、各競技練習を重ね白熱した対戦が繰り広げられた。

また、競技以外にも書初めを行ったり、メンコやけん玉・将棋など日

伝統競技部門

散らし取りでは1年生ながら星槎国際横浜鴨居の今泉あかりが優勝し、3連覇の期待がかかる見事な勝利だった。坊主めくりでは今年最初の強運を持った校舎は星槎学園湘南校だった。



個人戦優勝 今泉あかり

本遊びにも触れ、特に中庭で行なった巨大だるまおとしは大賑わいだった。お昼にはみんなでお餅を食った。仲間と過ごした一日は有意義な時間だった。

VOICE

個人戦 優勝 星槎国際横浜鴨居 今泉あかり(1年)

百人一首との出会いは中学校の時の百人一首の競技大会です。その時は札を多く取れず悔しい思いをしました。その経験があったから、高校生になったらしっかり練習して高い位置に立ちたいと思っていました。高校での大会は初めてでしたので、前日から胸がドキドキしていました。

と決まった時は「絶対に優勝するぞ!」と思って臨みました。決勝では他の人も多く札を取っていたので、とても緊張しました。優勝できたのも先生方や友達が応援してくれたこと、お母さんの協力があったからだと思います。来年も再来年もたくさん練習して優勝できるように頑張ります。

団体戦 優勝 星槎学園湘南校 太枝拓海(3年)

今回、湘南校は2チームの参加で、どちらのチームも順調に勝ち進むことができました。今思うと、予選通過の時点で、雰囲気明るく、勝利の喜びを分かち合い、優勝する機運があったように思います。決勝戦を迎えると、周りの応援に比べようという思いになり、手が震えるほど緊張してしまいました。誰か運を持っていくのか、メンバーを直感で選びました。3年生最後の思い出に、優勝できたことは誇りに思います。



団体戦優勝 湘南校チーム

2018年1月、世界子ども財団の宮澤保夫理事長がエリトリアを訪問。1月14日から23日にかけて、首都のアスマラにて、同国のゼメデ・テクレ文化スポーツ庁長官をはじめ、オリンピック委員会や陸上競技連盟とも、今後のプロジェクトについて協議を重ねた。

滞在中にはアスマラ・スタジアムの視察も実施。エリトリアには多くの才能ある若いアスリートがいるが、国内唯一の陸上競技場であるこのスタジアムの環境は悪く、選手たちが国内で公式の記録をつくる事ができないばかりか、トラックの劣



アスマラ・スタジアムでトレーニングするアスリートたち



写真左からアレファイネ農業大臣、宮澤会長、ゼメデ文化スポーツ庁長官

エリトリアを訪問 さらなる協働へ向けて

未来に向けて スポーツを超え

2018年1月、世界子ども財団の宮澤保夫理事長がエリトリアを訪問。1月14日から23日にかけて、首都のアスマラにて、同国のゼメデ・テクレ文化スポーツ庁長官をはじめ、オリンピック委員会や陸上競技連盟とも、今後のプロジェクトについて協議を重ねた。

化により練習も十分にできない状況にある。そのため、今回の訪問中に、宮澤理事長よりゼメデ長官に、トラック補修のための寄付金を贈呈。現地では2月より、トラック補修の工事が始まる。将来的にはエリトリアのアスリートたちが、国内で記録をつくり、国際大会に出場できるよう、環境整備の面でも支援を続けていく。

また、スポーツにとどまらず、様々な分野で両国の協力関係を進めるための協議も行った。アレファイネ農業大臣とも面会。栃木県那須塩原市のアジア学院にて、エリトリアから初となる農業研修生2名の受け入れが星槎の働きかけで4月より開始されることもあり、今後の農業分野での協働の可能性について協議。ゼメデ長官とも両国の絆をさらに深める文化交流

プログラムについて意見交換を行った。さらに、現地のCollege of Eritrea事務所を訪問した際には、スポーツ、教育、文化交流を含めた様々な取り組みにおいて、今後世界子ども財団および星槎グループと協力していきたいとの要請を受けた。世界子ども財団と星槎グループでは今後、スポーツに限らず、エリトリアの青少年の未来、そしてエリトリアと日本の友好のための活動を続けていく。

道都大学 日ハム、 星槎道都のある キタヒロへ!?

プロ野球、北海道日本ハムファイターズの本拠地移転構想に、まもなく最初の判断が出る。札幌市内の真駒内公園内か、隣接する北広島市の総合運動公園か。球団が一定の判断を出すと言われているのが3月。果たして、どちらになるのか。

北広島市に、となると星槎道都大学としては、硬式野球部のみならず、全運動部 全学を挙げて、

関わりを持っていく可能性が高い。本学硬式野球部OBの大累進選手がファイターズに所属するほか、昨年7月の「大学開放デー」では、広島カープの本拠地「マツダスタジアム」を手掛けた広島市都市機能調整部長の日高洋氏を招いてのシンポジウム「ボールパークの魅力を知ろう」を開催し、ボールパークに対して、市民と共に真剣に向き合ってきた。



福田俊投手

また、今年度からの「スポーツソーシャルワーカー養成カリキュラム」では硬式野球部を始めとする多くの運動部の学生が学んでいる。さらに、秋の明治神宮野球大会(大学の部)で、北海道勢初の決勝進出(結果は準優勝)など、この本拠地移転構想とのつながりはたくさんある。

真駒内地区については、本拠地移転に賛成する派と反対する派が署名活動等を展開するなか、北広島にも課題はあるものの、日本ハム本社サイドで反

対派がいることが懸念されたようで、「北広島へ」と報道されている。北広島市では2月3日(土)、「ボールパークシンポジウム」が開催され、ここに日本ハムファイターズの前沢賢事業統括本部長と三谷仁志同副本部長が出席。ボールパーク構想のプレゼンテーションを行なった。球団施設の土地使用料と固定資産税の免除を含めて、市としての協力体制は札幌市に一步も二歩もリードしている感はあるが、一定の判断が出されるまでは予断は許さない。

料理部門

今年も他を圧倒する工夫と調理力で星槎国際八王子が7連覇を飾った。

VOICE

優勝 星槎国際八王子 藤巻大輝(3年)

今年の料理部門は、初出場の4人での挑戦でした。先輩方の6連覇をなげたいという思いもありましたが、優勝するしなない関係なく、みんな「人を笑顔にする料理」を作るということを目標に



星槎国際八王子の「ジュラシックワールド」

しました。なかなか全員で練習ができず不安でしたが、集合した時には意見を言い合ひながら集中して練習をしました。「優勝」と「7連覇」は試食を

してくれた友人、先生方と一緒に得たものです。来年も良い結果が残せるように頑張ってもらいたいと思います。

大会総評

今年もお世話になってる企業や大学、専門学校の方々やプロ棋士の方にもご来場いただき大いに盛り上がったオリンピックを開催することができた。また、多くの生徒がスタッフとして運営に携わりオリンピックを終える

ことができた。多くの星槎の仲間が力と充実した一日とすることができたことに感謝します。次回は3月15日(木)駅伝部門の開催です。全国の校舎からの参加を期待します。(星槎オリンピック 実行委員 星槎学園湘南校 伊藤鉄也)

伝統競技部門 結果

- ◆ 個人戦
 - 優勝 今泉 あかり(星槎国際横浜鴨居)
 - 準優勝 山下 知莉(星槎国際立川)
 - 第3位 小磯 裕輝(星槎高等学校)
- ◆ 団体戦
 - 優勝 星槎学園 湘南校
 - 準優勝 星槎国際厚木
 - 第3位 星槎国際八王子

料理部門 結果

- 優勝 星槎国際八王子
- 準優勝 星槎国際立川
- 第3位 星槎国際厚木

オピニオン

星槎国際湘南 陸上競技部コーチ 門馬 健大

今年こそは痩せると意気込む人もいるでしょう。今回は、今までのまとめとダイエットの方法について話します。

何事も計画は大切。まずはしっかりと目標を立てる。いつまでに、どのくらい、可能な範囲で計画する。理想ではなく、現実的に考えよう。6月時点から夏までに5キロ痩せると計画する人がいるが、そのうちでなく長期的にダイエットするのが健康的なやり方だと忘れないでほしい。1ヶ月で

ダイエット ③

1kg、2kgくらいが現実。1ヶ月や数週間で一気に落ちるパターンは必ずリバウンドします。継続が何事も大切であるように体重を見て一喜一憂するのはやめよう。

次に1回目のオピニオンで「なぜ太るのか」について書いたが、一番は摂取カロリーと消費カロリーのバランス。普段運動する時間がない人は、摂取カロリーを変えただけで確実に落ちる。摂取カロリーが上回っているため太るわけではなく、単純に食生活を見直す。食事ではお腹が空くため、どうしてもそこで食べてしまうのは炭水化物。ある依存症の研究書に「炭水化物とコカインは、脳の同じ部位に刺激

を与える」と記述がある。制限ができないという人は、煙草と同じで依存症を意識することで抑えることができるかもしれない。炭水化物はエネルギーで大切ではあるが、摂取量が上回りやすいから、気にする人は少しだけでも減らし続けるだけで効果はある。例えば、いつも食するごはんの量を3/4にするなら負担なくできる。カラダは必ず慣れるため、無理のない範囲で始めよう。

食事だけでなく、運動も大切。脂肪を燃焼するのは有酸素運動が有効。有酸素運動は、運動して20分経つと脂肪が燃焼される。普段これをするのは大変だと思うが、駅まで歩く。バスを途中で降

りて歩く。階段を使う。買い物も歩くなど工夫するだけで機会を作ることができる。自力を意識しよう。

また、筋力トレーニングも重要。20分以上やらないといけないのはなく、まず行っていない人がトレーニングを行うだけで消費カロリーが増えるわけだ。0分が5分間の運動でもやり方次第で100以上になるわけだ。さらにハードなものを行えば、自転車や1時間漕いだ消費カロリーと同じになることもある。トレーニング内容は自分で調べてもらうが、基本的に知られている腹筋運動や腕立て伏せなど、実行することが意味を成す。筋肉をつける基礎

代謝が上がる。つまり筋肉がつくだけで燃焼させ、消費カロリーを上げるきっかけになる。そう考えると筋力トレーニングが一番有効とも言える。実際にライザップのCMで例えるのと分かるように、全員筋肉がついている。基礎代謝をよくする、それを意識してほしい。

以上が痩せる方法である。やり方はさまざまだが、最終的には精神力。意欲と我慢と覚悟。これを持たなければ続かない。私は「継続は力なり」ということより、「継続こそ力なり」と選手に言う。それが一番ということを伝えていく。これを読んでくれた方もぜひ意識して改善してみてほしい。

ニュース速報

第24回 神奈川県高校女子サッカー 新人大会 2連覇

予選Aグループを1位で通過し、神奈川県高校女子サッカー新人大会決勝トーナメントに進んだ星槎国際湘南女子サッカー専攻が見事2連覇をはたした。

1月14日より始まった決勝トーナメント。準々決勝では県立湘南台高校に6-0、準決勝では私立横浜翠陵高校に7-0で勝ち決勝へと進んだ。決勝の相手は、昨年度と同じ湘南学院高校。決勝戦は1月27日、かもめパーク神奈川県サッカー協会フットボールセンターで行われ、3-1で勝利し2連覇を果たした。

決勝での得点者は、高井咲都、納屋滴と遠藤彩椋。

星槎国際湘南女子サッカー専攻の3選手が県スポーツ優秀選手表彰を受ける

星槎国際湘南女子サッカー専攻 宮澤ひなた(3年)、加藤もも

(2年)と渋谷巴菜(2年)がAFC(アジアサッカー連盟)での活躍などが認められて2017年度神奈川県スポーツ優秀選手表彰を受けた。宮澤はU-19女子選手権優勝に貢献、加藤と渋谷も初の国際大会となったU-16女子選手権3位に貢献したことが評価された。表彰の対象は全国大会優勝や国際大会の成績優秀者であり、2017年度は192人と42団体が表彰された。

今秋のドラフト候補に

平成30年度のドラフト候補者に、先の第48回明治神宮野球大会で北海道勢として初めての準優勝を勝ち取った星槎道都大学の福田俊投手が挙げられている。福田俊投手は最速148kmの左腕で、170センチと小柄だが力強く押し出せる投手として紹介されている。横浜創学館高校の出身だ。

星槎 教師 列伝

「勝つ」喜び、「負ける」悔しさを知った 星槎国際高等学校 仙台学習センター 田邊あい



8歳年上の兄と家で柔道ごっこをしていたのが楽しくなり、本格的に柔道を学ぶためスポーツ少年団に入った。

中学時代は宮城県中等学校総体女子個人3位、高校時代は宮城県高等学校総合体育大会柔道競技団体・女子個人の両方で優勝、高校総体東北地区大会女子個人優勝、国体出場、大学時代は全日本ジュニア柔道選手権大会、全国女子柔道体重別選手権大会(現・講道館杯)に出場、東京学生柔道優勝大会女子個人3位と数々の大会で賞を受賞した。

高校時代、高校総体の県予選では相手も強く、どちらが勝ってもおかしくない決勝戦となった。

引き分け試合が続く、両者決着がつかないまま大將戦に突入。一進一退の攻防が続く、残り30秒でチームメイトが技を仕掛け、相手の身体が畳に強く落ち、「一本」と審判がコールした。その瞬間、我が校の初優勝、高校総体出場、そして長い間王者として君臨したライバル校の連覇を止めることができ、柔道人生で最も思い出に残る試合となった。

柔道を通じて「勝つ」喜び、「負ける」悔しさを知った。勝つ先には、国体や全国大会など自分自身で道を切り開くための努力や忍耐の大切さや、目標を成し遂げた喜びを感じた。また、勝ちたい試合の決勝で負けて、一度だけ母親の前で、悔し

くて泣いたことがある。なぜ勝てなかったのかと自分を振り返り、自分を見つめる時間をもった。ただただ、背中をさすってくれる母親の手が温かったのを今でも覚えている。

また、高校・大学と在学中に同級生にオリンピック選手がいて、その選手から一流の競技への価値観、オンオフの切り替え方など日常から学んだ。高校時代に長野オリンピックがあり、同級生がフィギュアスケートに出場するきっかけで聖火ランナーのサポートランナーの役をしたのは貴重な経験だった。

星槎の部活動・スポーツ専攻については、今しか経験できないことをと

ことん頑張ってみよう。そして、競技を通して様々な経験や出会いから感じたり、考えたり、自分磨きのチャンスを活かしてほしい。

これからの日本柔道については、トップ選手は実業団へ就職し、競技を続ける選手が多い。ただ、ケガや選手寿命など、柔道を続けられなくなった時、会社を退社する一部の選手がいるので、培った技術を次世代へ指導できる中学・高校の教員としての道を模索してほしい。日本の伝統の柔道を、動きながら星槎大学に通い、教員免許を取得する方法があることをもっと広く知ってほしいと話す。

セイスポ 相馬で奥寺カップと奥寺康彦サッカースクールを開催



奥寺カップ参加者

スクールを開催

平成30年1月13日(土)、14日(日)と2日間に渡り、星槎グループ主催による相馬奥寺カップ(U-10)と相馬奥寺サッカースクール(U-11・12)が相馬市にある光陽サッカーグラウンド(人工芝)で行われた。

13日はU-10を対象にした星槎奥寺カップが行われ、相馬をはじめとする東北地方の9チーム(参加者数、約110名)が参加した。3ブロック3チームに分かれ総当たり戦のリーグ戦を行った後、決勝トーナメントが実施された。決勝戦は相馬市内で活動をしている相馬SC Jrと相馬SSSの対戦となり、相馬SC Jrが大会を通して無失点で優勝を成し遂げた。天候にも恵まれ、最高のピッチのもと参加者たちは終始笑顔で大会を終えること



優勝チーム「相馬SC Jr」

ができた。

翌14日には奥寺サッカー教室も行われU-11・12の選手を対象に実施した。約100名の参加者が募り、直々に奥寺マイスターから指導を受けるなどして世界で活躍された技術を伝達してもらった。最後は子どもたちとミニゲームを行い、共に汗を流した。子どもたちにとってはかけがえのない時間となった。最後に奥寺マイスターから、「年々レベルがアップしている。来年も会えるのが楽しみ」と挨拶があり、子どもたちから笑みがこぼれた。

VOICE

指導を終えて

星槎国際湘南 男子サッカー専攻 監督 永瀬裕記

私は今回、大会とスクールのサポートという形で、初めて福島県を訪れました。サッカーを通して現地の方々と触れ合う中で、子どもたちや保護者の方々の多くの笑顔を



指導する永瀬監督

見れたことが特に印象深く残っています。サッカーというスポーツの持つ素晴らしいさを改めて感じることができました。サポートさせていただく中で相馬の子どもの技術習得の飲み込みは驚くほどの早さでした。次年度以降も、どこまで相馬の子どもたちが成長しているか継続した指導を努めて行きたいと強く感じました。

VOICE

陸上競技専攻

1区 大塚光司

運を味方にして区間賞を獲得することができた。本日は自力で区間賞を獲得できなかった。総合2位は心残りだが、みんな最後まで頑張りができ、いい思い出ができた。

オール星槎

1区 瀬上滉夢 (星槎国際立川)

区間賞を狙っていたけど、区間3位で悔しかった。OBとして走れる機会があればまた走りたいと思った。とても楽しい駅伝ができてよかった。

オール星槎

4区 那須滉生 (星槎国際帯広)

初めて出場させてもらって、繰り上げになっただけで、悔しい。直接渡せず、悔いが残った。しかし、駅伝で色々得られるものがあった。いい経験となった。来年もぜひ走りたい。

男子サッカー専攻

2区 鈴木暖己

去年より周りのレベルが上がっていて驚いた。前回も同じ区間を走ったが、今年はスキー実習もあって状態が万全ではなかった。改めて陸上選手の凄さを体感したレースだった。

オール星槎

2区 中濱敏彦 (星槎グループ)

身体に鞭を打って周りのランナーに追いつこうとしたが、気持ちはいってきても、身体はついてこなかった。星槎頑張れの応援が力になった。苦手なことに挑戦するのは大切だと感じ、子どもたちにそれを伝えたいと感じた駅伝だった。

オール星槎

5区 原田龍希 (星槎国際横浜鶴居)

走ってみても苦しかった。でも、苦しいより楽しいの方が大きかった。まさか区間新記録と区間賞が取れるとは思わなかった。駅伝を走れてよかった。

オール星槎

6区 中川将吾 (星槎学園北校)

アンカーと言われて緊張して走れるか不安だったが、でも何人か抜かすことができてよかった。個人記録は10分台を悔しかった。来年も同じところを走ってパワーアップして戻ってきたい。

第64回

大磯一周駅伝 活躍！ 星槎チームが



トップで襷をつなぐ

第64回大磯一周駅伝が1月21日に大磯中学校をスタート地点として大磯町内を経由して大磯運動公園までの6区間20.2キロで行われた。星槎からは星槎国際湘南陸上競技専攻、星槎国際湘南硬式野球専攻、星槎の仲間を集めたオール星槎として前回の覇者である星槎国際湘南男子サッカー専攻の4チームが参加。結果は陸上競技専攻が総合

2位、団体1位。男子サッカー専攻が総合4位、団体3位。硬式野球専攻が総合10位、団体6位。オール星槎が総合23位、団体15位であった。個人では、星槎国際湘南陸上競技専攻の4区間の門馬健大が4区で、オール星槎で星槎国際湘南陸上競技専攻の原田龍希が5区で区間賞と区間新記録を樹立。星槎国際湘南陸上競技専攻の大塚光司が1区で区間賞を獲得した。今年も昨年よりもレベルが



区間賞の原田君を囲んで

第64回 大磯一周駅伝 結果 (星槎関係)

◆ 陸上競技専攻	総合第2位	1時間 10分 35秒
◆ 男子サッカー専攻	総合第4位	1時間 12分 27秒
◆ 硬式野球専攻	総合第10位	1時間 19分 10秒
◆ オール星槎	総合第23位	1時間 28分 34秒



全員で記念撮影

上がりハイレベルの駅伝だった。チーム星槎は優勝できなかったが、各チーム個人が楽しむことができて、いい駅伝大会となった。(陸上専攻 門馬健大)